

地域公共交通計画に関する取組状況（令和 7 年度）

地域公共交通計画			令和7年度取組状況
基本方針	施策	取組内容	
【基本方針1】まちと暮らしを支える公共交通ネットワークの構築	1-1 生活交通の確保に向けた公共交通ネットワークの再編	1) 面的なネットワークの維持	【路線再編による運行効率化】 ・令和7年度市内バス路線減便数は377便 ・一部バス事業者において、地下鉄駅への短絡化や路線廃止を実施
		2) バス路線再編による運行効率化	【その他】 ・札幌駅～定山溪温泉間の直行便「かっぱライナー号」を増便（㈱じょうてつ）
		3) 地域特性に応じた代替交通の導入	・手稲区におけるデマンド交通「チョイソコていね」を運行 ・代替交通（空沼線、栄町篠路線）を実証運行 ・代替交通（空沼線）ダイヤ改正【R7.12.1】（利用者からの要望、利用実態を踏まえて）
		4) 地域と取り組む移動手段の確保	・地域交通（厚別ふれあい循環バス）を実証運行
		5) 小型車両・デマンド交通等への転換	・デマンド交通「チョイソコふじの～」の本格運行開始【R7.9.1～】（㈱じょうてつ） ・デマンド交通「チョイソコふじの～」の運行区域拡大（乗降場所 4 か所追加）【R7.12.1～】（㈱じょうてつ）
		6) 連節バスの導入検討	・連節車両運転技術研修を実施、2 名の運転手を西鉄バス研修センターに派遣 ・新たな公共交通システムの冬季テスト走行において、都心部及び郊外部のバス路線の試験走行を実施（道外のバス事業者から車両借受）
		7) バスーバス乗継割引の導入検討	-
【基本方針2】持続可能で安定した運営体制の確立	1-2 交通結節点等を介した交通モード間の連携	8) 交通結節点等の機能強化	-
	2-1 持続可能な事業運営に向けた取組	9) 持続可能な運営に向けた収支改善	【乗合バス路線維持補助金】 ・令和 7 年度補助額（令和 6 年度運行分）：1,631,920千円 【運賃改定】 ・バス事業者からの申出に基づき、協議運賃部会において、運賃改定について検討を開始。 ※令和8年6月30日開催の協議運賃部会にて、令和9年4月から札幌市内の特殊区間運賃を改定することについて協議が調った。 特殊区間1区 240円→270円、特殊区間2区 270円→300円
		10) 運転手確保に向けた取組	【待遇・労働環境改善】 ＜路線バス各社の取組＞ ・ベースアップ・定期昇給等の実施 ・初任給・若手職員の基本給の引き上げ ・手当の拡充 ・休日数の増加 ・職場環境の改善（休憩室の改修、仮眠室の個室化、偏光サングラスの導入など） ＜行政による支援＞ ・二種免許取得補助の実施（国土交通省、札幌市） ・施設整備補助、就労一時金・移住支援金補助、人件費増加分に対するインセンティブ補助（札幌市） 【新規採用に向けた就職説明会等の開催】 ・自衛官向け運転体験会・合同就職説明会（北海道運輸局札幌運輸支局、自衛隊札幌地方協力本部） ・バスドライバー就活フェア（北海道バス協会） ・ドライバー就職フェア（北海道、北海道運輸局） ・営業所見学会、職業体験会（バス事業者） 【イベント出展等による職業の魅力紹介】 ・「ミニさっぽろ2025」で子どもたちに職業の魅力を P R ・「北海道さっぽろ圏移住フェア」でバス運転手の仕事紹介 ・「さっぽろシゴト博」で職業の認知・魅力を P R 【外国人材活用】 ・外国人材の受入れに関するモデル事業を開始

（裏面あります）

地域公共交通計画			令和7年度の実施状況
基本方針	施策	取組内容	
	2-2 新技術等の活用の検討	11) 事業者間での協働による取組の検討	-
		12) 新たな決済手段の活用検討	【地下鉄】 ・令和7年4月から、クレジットカード等のタッチ決済による乗車（クレカ乗車）サービスの実証実験を開始 ・令和8年3月から、クレカ乗車の1日上限運賃サービスを開始 【路面電車】 ・クレカ乗車サービス導入に向け、全車両に決済用端末を設置（令和8年4月からサービス開始）
		13) 新たな公共交通システムの導入検討	・連節車両運転技術研修を実施、2名の運転手を西鉄バス研修センターに派遣【再掲】 ・連節車両の実証実験として、都心部及び郊外部のバス路線で冬季テスト走行を実施（道外のバス事業者から車両借受）【再掲】 ・デマンド交通の実証実験として、予約配車システム及びF C V（水素燃料電池車両）の運用検証を実施
		14) 自動運転に関する検討	・学識経験者や自動運転バス運行事業者、市内路線バス事業者へのヒアリング調査を実施。 ・今後の実証運行における実証内容の整理と自動運転の活用及び導入路線・区域等の案の検討。 →積雪寒冷地における技術検証を継続、実証運行による知見・データを蓄積を進めていく
【基本方針3】利用環境の向上等による利用促進	3-1 わかりやすい運行情報の提供	15) 運行情報発信体制の充実	・各公共交通事業者によるホームページ等を活用した情報発信 ・路線バス事業者のバスロケーションシステムによる運行情報提供 ・「さっぽろえきバスナビ」による市内主要公共交通機関の運行情報提供（札幌市）
	3-2 待合環境・走行環境等の向上	16) 待合環境の向上	・札幌運輸支局と共同で、バス停近くのコンビニエンスストアを「バス待合所」として利用する取組を実施（市内22箇所の店舗で実施中、令和7年12月1日時点）
		17) バスターミナル機能の維持	・各バスターミナルにおいて、適切な管理運営を行い、その機能の維持に努めた
		18) 路面電車の活用及び機能向上	【既設線機能向上の取組状況 R7年度実績】 ・車両基地改良工事 ・低床車両の導入 1両 ※新型低床車両「ポラリスII」 ・タッチ決済機器導入
	3-3 バリアフリー化や脱炭素化の推進	19) バリアフリー化された車両の導入	【バリアフリー化された車両の導入率 R7年度末時点】 ・路面電車低床車両 42%（R11年度目標値：50%） ・ノンステップバス 54%（R11年度目標値：75%） ・ユニバーサルデザインタクシー 28.5%（R11年度目標値：31%）
		20) 旅客施設のバリアフリー化	旅客施設のバリアフリー化状況 R7年度実績値（累計） 【地下鉄】 ・エレベーター設置基数 74基 ・トイレの改良を実施した駅数 11駅 ・案内標識の多言語化 46駅 ・ホーム案内放送の男女別音声案内化 46駅 ・案内表示機のCUD（カラーユニバーサルデザイン）化 34駅 【JR駅】 ・バリアフリー整備駅数 20駅 【バスターミナル】 ・バリアフリー化された利用者の多いバスターミナルの箇所数 4箇所 【路面電車】 ・停留場のバリアフリー整備箇所数 14面
		21) 脱炭素につながる次世代自動車の導入検討	・水素エネルギーの利活用に向けた取組の一環として、バスやトラックといった商用車に対し、水素車両を効果的に導入するための手法を検討した。 ・（一社）札幌ハイヤー協会と連携し、水素燃料電池タクシーの運行実証を実施。
	3-4 公共交通の利用促進に向けた取組の推進	22) 小学生への公共交通に関する学習の実施	・小学校への学習資料、教師向け指導書の配布及び研究授業を実施
		23) 企画券等による需要喚起	・交通と観光の共創による観光MaaS「ぐるっと北海道」にて企画券を販売 ・中心市街地の水族館と連携したバック券や、定山溪温泉地区の施設と連携した新バック券を発売